

お金では買えぬしあわせ

汗で買い

あれになろう、これになろう  
と、あせるな

黙つて、まづ、自分を動かぬ  
ものに作り上げる。



「愛なき身には味方なし  
心淋しきまま、自らへつ  
らい寄る人をば喜ぶ」

「結局は人だ 結局は心だ」

蘇 峯

## 人格接触を昂めよう

地区コミ 鈴木 順 一

本年度の夏の行事も無事に終る事が出来ました。これは常日頃のスカウティングの賜と心より感謝する次第であります。特に勤務のかたわら、少ない閑時を利用してスカウティングに全力をあげ努力して下さる、隊長、副長さん方に心より感謝するものであります。

先回の地区合同野営を静かに反省する時、隊長、副長さん方の努力が正しい方向への努力であつただろうか？スカウティング 2 次制度を充分活用していただろうか等々考えればきりが無い。

「ベーデンパウエル卿の頭脳と豊富な経験と、深い人生観と正しい世界観、もゆるような人間愛と敬虔な信仰、固い信念等々を緯とし、心理学、教育学その他近代科学を経として編み出されたこのスカウティングは偉大な教育法ではあるが決してこむつかしいものではない。これをいわゆる「使いこなす」能力は多くの人々が持っている。それを使いこなし得ないのは、その人の認識不足か、努力が足りないからだ。お互いに励むべきことである」と。今一度正しいスカウティングを知り努力せんことを……。

秋葉山にての三土会で合同野営について反省を行つた。ここに記し、次回の野営にはこのような事のない様、日々のスカウティングに精進していただきたいと希望する。

- ①野営に一番注意しなくてはならない衛生観念の不足。
- ②プログラムを正確にたて有意義な内容にしないでならない。
- ③班制が活用されていないところがあつた。
- ④設営材料の不足。
- ⑤野営場の広さをもつとほしかつた。
- ⑥成人が野営、食事の準備等手伝うキャンプは今後はやめたい。

以上である。最後に私として次の様な事を感じた。

次第に形式化し機械化していく傾向が生まれ、指導者とスカウトとの間に全人格接触のチャンスが失われはじめているのではないだろうか？。それ故キャンプこそ良いチャンスである。指導者とスカウトの人格接触（パーソナルタッチ）をもつとたかめなくてはならない。

## 第11回 世界ジャンボリーに参加して

浜松第4団年長隊 内 田 博 人

7月28日の夜、羽田を出発しアンカレッツ、コペンハーゲンを経て30日の午後ギリシャのマラソンへ着きました。まず最初にみんなの目に入つたものは、白い壁の家々、赤ちやけた土と真青な空でした。次の日から数日間というもの色々の作業で大変いそがしい日を過ごしました。一週間もたつと、みんな風の強い乾燥したこの気候。

びんずめの水。（水道の水がのめなため）まつたくちがつた食事にもなれて、地下の貯蔵庫などを作つたのもしばらくしてからでした。英語もみんなどうにかこうにか通じるようになり友だちも多くできるようになりましたが。朝から晩までのギツギツまつたスケジュールの中で友だちを作るという事は大変な困難が伴いました。しかし外国のスカウトは日本のスカウトとくらべるとなにか大変暇なようで、隣のサブキャンプ（スコットランド）ではいつでも楽しそうに合唱したり、パイプパイプを吹いたりしていたし、フランスの友だちは、一日中ぼくの班に来て遊んで行く。どうしてそんなに暇なのかわからなかつた。

このジャンボリーを見て感じた事は、なにかやたらに行事が多かつた事、色々の行事を行うのに時間が守られていなく、長くまたされた事だけで、あとは設備などもりつぽで大変良かったと思ひました。

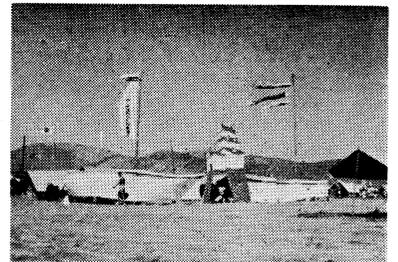
ジャンボリーが終わると、私たちは3台のバスに分乗してヨーロッパへの旅とギリシャを出発してユーゴスラビアへ入りスコピエの地震のあとを見て、日本人の経営している繊維類から糸そして布を織るまでの一環した工場をも見学した。ベオグラード、ザグレブを経てオーストリアのウィーンに入り、ドイツのミュンヘンを経てスイスのパリセレンと言うチューリツヒの郊

外の町へ着き、ここで多くのスカウトと多くの一般の人々から歓迎をうけました。ここでみんな2人づつ各家に別れて分宿しました。ぼくの泊まつた家は、おばあさんとむすこさん夫婦の三人ぐらして、

ご主人はチューリツヒの税務署へ勤めているそう。ヨーロッパの人々は多く日本の国へ関心を示す。この家でも日本の茶器墨絵、生花の本などを見せてくれて色々日本の事について質問をされた。ここへ泊つた事は一生の良い思い出となるでしょう。インターレーケンではユングフラウンと呼ばれる山に行つた。ここは映画「アイガ大岩壁へいどむ」のロケのあつた所です。

次の日は、ギリンドルステイツクのスカウト野営場を見学し、とてもたくましく力強い感じがしました。ジュネーブを経てフランスのパリへ入つた時、思いがけずジャンボリーで友達になつたフランスの少年が尋ねて来ました。そして彼にパリの町を案内してもらふことができたのは大変すばらしい事でありました。ドーパ海峽を船でこえてイギリスに入りました。ロンドンではベーデンパウエルハウスへ泊まり、ギルウエルパークなどを見学に行きました。

この一カ月の旅行を135名もの人が無事に行つてこられた事は、スカウトの間に強い友情があつたればこそ出来る事であると思ひました。



第11回世界ジャンボリー第1隊ゲート風景 於ギリシャにて 1963.8



⑦

# 班制度 (パトロール・システム) について

(浜松地区編)

## 1、グループ教育の意義

班制度はスカウト教育の基盤であります此の制度を軽視したり、その運用が不適當であつたりしたらBS教育は成立しないと云う程重要な制度であります。

団体組織上の形式として、又は事務的や便宜上に考えられたものではなく、生命を持つた有機体であります。それは、児童心理学に基礎をおいて、深い研究と愛情の下に勘案して創始されたものであります。

### 少年の本能

子供は、年代に於てその人数は多少異なりますが、群をつくる本能を持っています。(集団本能、徒党本能)。これは第三者が人為的に、命令して作つたものより強い団結力を持っています。5才～11才(年少期)……5～6人  
12才～16才(少年期)……7～8人  
17才以上(青年期)……3～4人  
大体上記の人数は少年達の本能に基づくもので、その鞏固さは人数が限定されて居ます。

そして必ずいわゆるガキ大将が居ります。

**そ**の中心人物の引張り方の如何によつて強固にも弱体にも、そして善にも悪にも進んで行くものです。以上が悪に進んだ時に不良少年のグループとして非行に専念する強固なものとなります。此の本能を巧みに利用したボーイスカウトでは、班としてパトロールシステムとして実施して居ります。

## 2、指導児の育成

人間一生のうち、ガキ大将の下にあつてグループを作っている時代の感化を受ける事は大きく影響するもので、その人の将来の大半はそこで左右されると言われます。従つてボーイスカウトでは、そのガキ大将……よい班長をつくる事に重点が置かれます。

指導者(隊長)の最も大切な仕事はよい班長に仕立てる事でありませぬ。

此の年代の少年は英雄崇拜心、冒険心、移住本能、原始的本能に富んで居りますので、その心理を利用して班長を通じて指導して行くのがボーイスカウト教育の特徴であります。

班長はその班の指導児であります。

班員は自分達の中から最も信頼できる人を選挙によつて選び出します。

隊長は班長をよく指導して行き、班員の指導は班長によつてやらせませぬ。

そして仲間同志の感化力を応用して切磋琢磨し、相互教育、相互扶助により友愛を生じ、自治が築かれて参ります。隊長はよき監督者であり、よき協力者となります。指導能力の面から、教育学上個性教育は30～35人以上は無理であると言われます。従つて、ボーイスカウトでは1ヶ班8人を限度として1ヶ隊4ヶ班以下と定めて居ります。1ヶ隊32人を最大限度として居る訳であります。

**而**し、如何に有能な隊長でも、32人を一率に直接指導する事は時間的にも、場所的にも差支えがあるが、班長教育なら僅かな時間、小さな場所で指導する事が出来ませぬ。又その方が集会もし易いし家庭的、社会的生活でもあります。

欧州のある小学校で一年生を集めて理科の実験をした時のお話であります、△子供の全然知らない器械の動く原理を先生が説明したら、理解出来たものは36%であつた。

△それを、先生の説明で理解出来た子供に、同じ年頃の子供に説明させたら90%理解させる事が出来た。

子供には子供の言葉があると言われて居りますが、言葉だけでなく、觀念の交流がある事が判ります。

ボーイスカウトの指導系統は

A、隊長→上級班長→班長→班員

B、隊長→班長→班員

であります。

**指**導者が全隊員を一斉に、而も一率に指導する事は完全な個性教育も、自発教育も出来ななし、又社会人である隊長には時間的に余裕もないし、子供達の心理的要求にも合致しませんしそうした隊は伸びても行きませぬ。スカウティングの目的は

- 1、よい公民をつくる、ばかりでなく
- 2、よき指導者をつくることであります少年は練習をし、経験をしなければ、それを覚える事は出来ませぬ。新教育でもなすことによつて学べと言われて居ります。

○練習したり経験する機会を多くつくつ

てやる。

○班は楽しい家庭でなければならぬ。

○大人の指導者の仕事を半減すると同時に、もつとも有効なものにする。

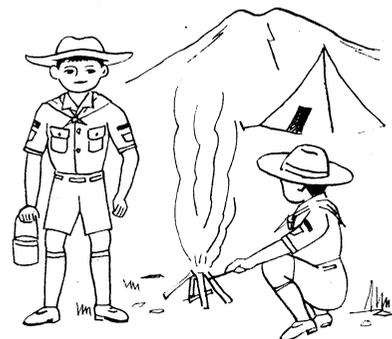
等の事について配慮してやらなければならぬませぬ。隊長は、子供の先導者が隊を指導出来るよう指導、訓練する事に努力します。

その訓練、指導が出来れば、自分の仕事は減つて、而も隊長が居なくても立派に集会も、訓練も行ふ事が出来ませぬ。

**創**始者、ベーデン・パウエルは「班制度は、少年達に責任を移し隊長を楽にするために行うのではなくただこれが、人格涵養のために、一番よい方法である」と言つて居られます。

此の班制度を更に教育的に効果的に活動させる為には班長、次長、記録係、会計係、備品係、野営係、衛生係等全員に何か一役つけ、どれでも一通り出来る様にし、これによつて彼等の中に隠れた才能を発見する事が出来ませぬ。

班名、班標章、班旗、班別章、班呼、班記号、班精神、班標語、班善行、班競技、班ハイク、班会議、班記録、班報告、班野営、班ルーム、班長班、班訪問等の種々のきまりが全て班を中心と定められて居りますが、夫々その詳細は別の機会に申し上げたいと思ひます。



## 『天は白雲と共に暁け 水は明月に和して流れる』吉沢 純道

浜松地区合同野営を北遠の仙境川宇連に於て昭和38年8月2日～5日(3泊4日)キャンポリー型で開催した事は、テストケースとして、当事者は種々と反省する所多々あつたと思う。輸送関係では遠州鉄道の団の方々の御協力と共に陰に陽に御迷惑をかけたかと思う。二百有余のボーイスカウトの大世帯ではあるが、各野営区の野営長並びに隊長を中心として、よく統制下に行われた。世間一般のキャンブと異なり、其の野営生活の中に教育的分野は培われたと思う。ボーイの中には、初めての経験ではあつたが、各々持てる力を全幅に発揮したと云つてよい。然し道は遠い。常にスカウト精神を以つて前進又前進の心構えこそ要中の要である。「そなえよ、常に」とは、この辺の消息である。この言葉の底に力強きものを叫んでいる。そなえあるもの——我等のたどる道は、現前の事実として今日より外にはないが、今日を通して「そなえよ、常に」の永遠の斯の道である。「若き日よ、すこやかな日よ続け。汗ばむこの力、手に足に胸に力は、こもる。したしき友よ、いつまでも、いつまでも輝き永遠の日は続け「合同野営全日を通じ、大過なく、其の成果を得たるは、当事者諸氏の細心の注意と準備を以つて献身運営の結果」と思う。

地区コミッショナーの教育視野から観るならば白雲万里総べてに足らざる所があつたと思う。初めてキャンブの参加者の中には、こういうのがあつた。「草が沢山ありすぎ、ここが私達の野営場だと思

つた時ガツクリ来たが、張つて見ると素晴しく出来た。これから三日間ここで住むと思うと、とてもうれしい。一人のスカウトが、もうホームシックになつた。誠に早い。先が思いやられる。まむしが出ると云うので緊張した。然し、物事はやつて見れば出来るものだ。常日頃の訓練教育が野営の行事や態度に表われる。大人数でも少数でも、チームワークのとれる隊は実に気持がよい。キャンブサイドの見学——教え教えられる所がある。隊毎に創意工夫、特色があるのも亦興味である。私は朝礼の言葉に於て人間として本来進むべき道を念じて話さして貰つた積りである。諸君が緊張して聴いてくれたのはとてもうれしい。地中の清水をポンプで押し上げるようなもので吸い上げるものは、自の心の上に溢れて居る唯それを押し出すだけである。語らざる内に皆の胸にみながつて居る。声前ノ一不聖不伝という所である。これは他では味うことの出来ない境地である。

「何事のおおしますかは知らねども、かたじけなきに涙こぼるる」である。BSは理窟ではない。意義ある人生の今明日をたどる体験である。合同野営中医療班の諸先生が御多忙の処を交替で本部に控えて下さるの、どの位心強いかわれない。全員安心して野営の行動が出来た。本当に有難い事である。

今度ほど天候に恵まれた事はない。晴後雨、雨後晴、絶好の訓練日和であつた。「幸に瑞世の雨あり。何ぞ一声の雷をもちいんや」所ではない。雷鳴にわかにか

る緊張の一コマであつた。キャンブは喜びも悲しみも幾歳の人生の縮図——風あり雨あり、亦楽しからずやである。塵一本残さず、掃き清められた撤収後のキャンブサイドを眺める時、何となく今別れ行くさびしさと共に川宇連の森の清に合掌したい気持で我が眼はうるおう。森木立の自然は、黙々として居る。この黙々の中に天籟の妙音を聴く者は、人間に与えられたる私の秘密である。頭上漫々、脚下漫々、誰れのものでもない。

「私」のものだ。一年万年、万人一人、人類の内より選ばれたるもの「私の秘密」であり喜び感激である。「心をすこやかに徳を養います」者に与えられる「私の秘密」でもある。合同野営出発並に帰還の時、再度にわたり平山博三浜松市長よりの参加者に対し激励と訓示をして下さつた事は思い出の一つである。

帰還——浜松市役所前には、特に牧野英司市会議長よりの挨拶には感銘を新たにした。私は思つた。今この広場に立てるボーイスカウトが野営地を撤収せる時の如く、紙屑一ツ塵一ツ残さないようにこの名誉ある市役所の広場を汚さないようにしなければならぬ。名誉にかけてこの広場を清く正しく守つて行かなければならぬ。この一事の實際が自分を更に正しく守り育てて行くのだ。ボーイスカウトよ我等の広場を汚さざれ、我等の道を守れと祈りながら帰路についた。終りに「天は白雲と共に暁け水は明月に和して流る」という禪語を以つて、随想の筆を擱こう。(合同野営・野営長)

## 合同野営をかえりみて 地区副コミ 牧野

浜松地区の合同野営が初めて行われたのは、6年前の昭和32年の夏と記憶している。当時は今日の様に、各隊共、天幕や炊具、工具等は殆ど整つて居らず、夫々の隊に於て野営工具等はスカウトの家庭から持ちよつて参加したものである。然し当時とて、今と変らぬ野営訓練が、楽しく又厳格に行われ、その時の苦しかつた思い出が、楽しくよみがえつて来る。北遠の県境近い渋川で合同野営を行うようになったのは昭和33年からで、もう5年にもなる。

毎年新しい隊が発足して此の行事に参加する隊が増し、年々盛大に行われるようになった。一方キャンブサイドの選定にリーダー 諸氏が 頭を痛めるしまつである。

今年には三つの野営区に分れ、夫々の野営区に於て、いろいろなプロが生まれ、隊の日頃の訓練ぶりが発揮された。

特に今年には各隊共新しい、そしてあまり野営に経験の少ないスカウトはスマートネスであれ、と云われているが、山の中でも同じことである。汚れたシャツや靴下を身につけているのはスマートネスで

はない。又衛生的でない。

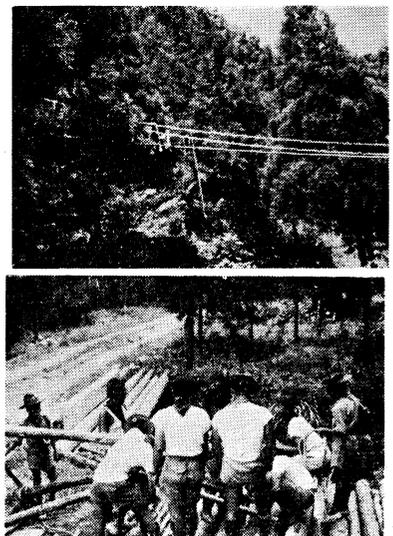
家に居る時はお母さんが洗濯をして下さると思うが、野営に行けば、自分の事は全て自分でしなくてはならない。これも一つの貴重な経験である。

野営は苦しく又楽しいものである。この次からは気をつけてやろう。

今年の野営は天候に恵まれた理想的なものであつた。

或る年は毎日降り続きの事もあつた。キャンブには雨がつきものである。その上今年には夕方雷鳴と共に夕立があり、一時は各隊のスカウトが若干混乱したが、雨に対する対策を充分考え、そなえよ、つねにの精神を忘れない様に努力されたい。

大自然の中で生活し、人格円満、身心共に健康、そして何かの技能を身につけ、奉仕の心を持つ。この様な事が知らずにスカウト諸君にそなわつてくるのです。3泊4日の野営も無事終了、いろいろ忘れられない思い出と貴重な体験を活かして日頃のスカウティグの向上の為に役立てて行きたいものです。



【写真説明】

(上) 沢、道路の中10m上を第3野営区渡辺小コミの指導によりSSが中心になり架けられたモンキーブリッジ  
(下) 第1野営区稲垣小コミ指導に依り、信号塔縛材作業、もう立てるだけです。

# 関東実修所に入所して

浜松第10団SS隊長 後藤守利

先年から希望しておつた実修所課程も仕事の都合で今迄参加出来ず残念に思つておりましたが、今回勤務先の課長や同僚の皆さんの協力により、去る八月十一日より十六日迄、日連山中野營場で行われた、関東埼玉実修所第一期を、満足な成績ではありませんでしたが修了してまいりました。その感想を簡単に記して見ます。

実修所は自分で修める場所であり、習う処ではないと開所式の言葉が一番印象に残つております。

私の班「ふくろう」一つにしても「年令」「指導歴」の差があり、結束した班の中にも「能力」や「特技」等で差があり、又当然あるべきであつたでしょうが他人の行動や能力を参考にし、その中から何かを自分のものにし、スカウティングに活かすのが実修所であると思ひました。無限に広がつたスカウティングの門を開け様とする糸口を見つけさせるのが実修所であると感じました。

その為にはやはり指導歴二年以上の人に参加するのが適當ではないかと思ひます。

◇パイオニヤリング(開拓)  
現在では開けすぎた感のある山中野營場では充分ではなかつたけれども、自然に対する興味や冒険についてスカウティングの上で大変参考になりました。アックス(洋式大斧)の使い方一つにしても目新しい事でしたが、時間に追われて充分な実修が出来なかつたことは残念でした

◇シグナリング(信号通信)  
モールス信号の不勉強は、誓いの「いつも他の人々を援けます」の実践もこれでは……と感じられ、深く反省しております。

◇キャンピング(野営)  
自己の隊の反省として、野営用品の不備が感じられました。不足なものを工夫して行なうのもスカウトであると、反論する人が有るかもしれませんが、班別教育のスカウティングには、ある程度の用品は欠せないと思ひました。

◇オーバーナイト(一泊ハイク)  
初めての経験でありましたが、ハイク想定導入の仕方や隊長の道化ぶりは、真迫性があり我々の過半数は本物だと思つた程です。しかしもう少し変化のあるコ

ースの方がスカウト、特に年長スカウトには例えば登山の様に征服感のあじわえるコースが必要ではないかと考えました所員としても、年令の差が大きいため苦慮したと思ひますが、私はもう少し苦しみや忍耐を要求されるものと思つただけに、期待はずれ(或はそれが幸しいたかもしれません)でした。

◇キャンプファイヤー(営火)  
営火はスカウトの目であると云われていますが、出しものや特にエールマスターの盛り上げ方は大変参考になりました。

◇その他  
ゲームの取り入れ方、特に夜間ゲームについては興味を惹かれましたし、ゲームの作り方や、ルール等についても、ゲームマンへの糸口を見つけ大変参考になりました。

何事にもスカウトに想像やイメージを与えなければ成功しないと反省する所も多く見受けられました。例えば林の中のアックスの音の響き、大人でも自然の中のリズムを感ずることでしょう。

# 一日交通指導員になつて

BS 浜松第7団 少年隊準班次長 鈴木正良

7月14日、ぼく達ボーイスカウトは浜松中央警察署に集合、改正になつた道路交通法についてお話を聞いたあと、何班かに分かれて街頭へ出た。そしてちらしを通行人に配つたり、お巡りさんのお手伝いをした。ぼく達の班は有楽街の入口の横断歩道に行つた。お盆なので大変な人出であつた。ちらしを配る時初めは少し恥しかつた。ぼくがちらしを「どうぞ」と云つてさし出したら、急に、にやにやして急いで逃げていつてしまつた。

何だかいい感じがしない。もう少しボーイスカウトのぼく達に理解をもつてほしいと思つた。又大人は余り交通規則を守らない。横断歩道を渡る時、最初安全地帯へ入るまではいいが、その後、自動車が止まつていると云うので、後半分の歩道の途中から、白線から出て行つてしまう人が多い。見ていて危ないと思つた。注意しても、しらんぷりをして行つてしまふ。

大人がもつと規則を守つてくれれば交通事故は防げると思ふ一日も早く交通事故のない模範都市浜松にしたいと思つた。



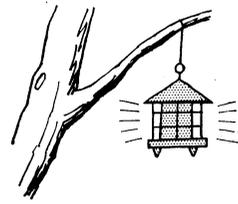
(4)

# 少年を理解しよう

あるテレビで「17才の声」を聞いた東京都内のある区の少年少女達が学生、店員、勤労者等である。彼等がまず第一にいつたのは「17才、17才と、何か悪い年代の見本のようにいうのはけしからん」という事である。もつともな事である。大変微妙で、難しい年代だが、まじめに学び、まじめに働く17才が大部分である。「オフクロは話し相手にならないし、おやじはブスツとしていて近づき難い。学校では先生も親しみにくい。話や悩みを聞いてくれる人もない」という発言もあつた。  
◇孤独の青春の告白で何だか同情したくなつた。「話を聞いて呉れる人」と

して先輩や友人はないか。もしいながつたら本という良い師がいる。このごろの若い世代は、本への関心が薄らいだのではないだろうか。ボーイスカウトの隊長や副長はこの「話を聞いて呉れる人としての最適者である」と思ふ。「何かバツトした事をやりたい」との意見には、男の子たちはほとんど共鳴していた。自己顕示、英雄礼讃の年頃らしい。野球や芸能で、スイ星の如く出現するスターはやはり彼等のあこがれのまどだろう。そういう素質の持主は暁の星の如く少ないのだが、誰も彼も自分の素質はたなに上げて、こうした願望を持つそれがフラストレーション(欲求不満)になつていろいろ発現するのだから、

テロ志願なども、バツとした事をやりたい々の変型ではなからうか。親と子の問題について女子学生はこういつた。「私達に古くなれつたつて古くなれつこないのだから、親が私達に歩みよつてきてほしい」誠に名言である。17才はどんなにつとめても古くなれつこないものである。而し、親たちが古くなれつこないのでは解決しないばかりでなく共倒れになるおそれがある。現代の親達、大人達は新しくなる事につとめるべきであらう。我が子を、若い世代をよく正しく理解することだ。



## ギルウエルに学ぶ

浜松地区事務長 三輪悦爾

原理は一つ

技術は日々向上進歩を遂げている

スカウティングに於て、職人を養成するところではない。

而し、それ以上の技術を要求する…。

此の言葉は、古田誠一郎所長が開口一番、申された言葉である。

私は幸にも、日本ギルウエル第10期スカウトコース入所を許可され、8月16日、浜松を離れる事になり、一まつ不安と、表現しにくい感情を胸にひそめたものでした。

幸なるかな、プラットフォームまで私の不安を取除くかの如く、先輩U氏が激励と勇気づけに来ていただいた事には又と得がたい力強さを覚え、列車の人となる。

上野駅で、六橋磐田地区コミと落合い那須野営場へと向う。翌17日正午、三島神社に集合、軽食を給与され、班、隊編成(2ヶ隊編成なる)個人装具の点検野営場入口にて、言葉短い、味のある所長の言葉に、三つの約束をし、10日間ベストを尽そうと固く心に誓い、健児の門をくぐる。

のどもと過ぎれば……と云いふるされた諺があるが、健児の門をくぐった時の気持は、一生を通じ忘れられぬ、強い心境であつた。

3号4号で先輩宮沢、牧野両氏が、ギルウエルで学ばれた記事が載せられてありますが、全く同感です。

特に私は、スカウト教育に於ける、2大制度のうちのパトロールシステム(パッチシステムと共に)が如何に重要な位置を占めておるか云う事を10日間つくづく考え直された一つです。完全なGB教育(班長)がなされ、パトロール

システムが生かされておる隊に於ては、十分な成果をあげ得る事が出来るが、それが欠け、なされておらないと云う事は何等一般子供会と変りはないと云つても良いと思えます。完全になされておるならば、おのずと——パッチシステム(進級、技能制度)にしても〇〇2級とよく呼ぶものを急造せなくて済みそうな問題であろうと考えさせられました。

実力の伴わぬ、実績のないものに、与える為にあるパッチシステムでないはずです。努力に対し賞讃と激励こそすれ、誤つた解釈で行つておる事はすまされない問題だろうと思ひます。

毎朝の点検、講評、優勝……。これらは私に取つて最も収穫の大きかつた一つです。それは一つはチームワークと云うことです。もう一つは、人間接触、そこからおのずと生れてくる人格型成です。点検に例をとるならば、受ける気持になり切つて(スカウトの気持になり切つて)点検をなし得るならば、おのづと人間愛が漂つて来るはずだと思ひます。

班長を中心にして作業する。何と愉快な素晴らしいものだろう。少年が好むものは、スリルと冒険です。正しく導いてこそ少年の夢は、大きくふくらみ、物事を正確に判断出来る少年が生れて来るものです。

障害探渉(那須で体験した一こまでありますが)

それは、各関所の突破は、班のチームワークによつてだれでもが突破(克服)しなければならない。もし出来ないものは、その関所の前で大きな声で「お母ちゃん」と呼ぶものとする。

想定

君はアンデスの狩人である。断崖の上

に住む大ワシを生捕りにしなければ1人前にはなれない。さあ元気を出して断崖を登りたまえ……。アンデスの光榮は、ロープを渡り終えたところにある。と云う様な具合で、高さ15mの縄ばしごで登り、そこから斜めにロープを滑り降りるのである。勿論地上では、あみロープを用意してはありますが、チョットスリルがあります。ゆらぐ縄ばしごを登る時、ロープを滑り降りるのは、滑台をすべる具合にはゆかないものです。

めまぐるしい体験に、なる程々な事に依つて学ぶものか——先輩はうまいことを云つたものだと思感をする。また、BS関係の書籍は目で見てもいい。体で読むものだと教えられた事が、一泊ハイクに依つて尚一層強く胸に刻まれた次第である。

原理は一つ

長い様で短かつた10日間、一生に於て貴重な日時であつた。それはスカウティングに於けるお客様は子供であると云う事である。とかく私達はそれを忘れる様な事はないだろうか?大人の考え方のみで事を運ぼうとする事はないだろうか?

今一度、ボーイスカウト運動は子供の為にある運動だと云う事を回顧してみる必要はないだろうか?

閉会式に古田所長が云われた4つの事をみなさんと共に考え、唯一の社会教育団体であるBS運動に参加出来る事を喜びとし誇として、日本式に此の運動を前進させたいと思ひます。

①子供を信ずる事が出来るか ②ちかいの一つである神(仏)を信ずる事が出来るか ③スカウティングを信ずる事が出来るか ④自己を信ずる事が出来るか。

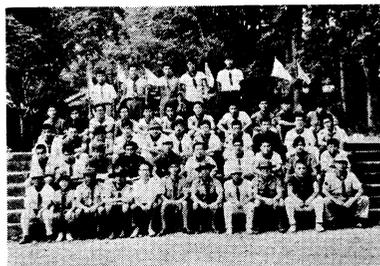
もう一つこの運動は大人が子供に奉仕する団体であると云う事も……。

## 終る—69回BS指導者養成講習会

(於 井伊谷宮)

前日8人宛の4ヶ班と予定して準備をし、当日受付を開始したら、来るわ来るわ、遂に9、9、8、8、8の5ヶ班の大盛況。西は豊橋、東は富士宮、最高65才、最低17才、平均年齢27・1才BS関係者8名。時には晴れ、時には雨に雷鳴を加えて、広い神域を十分に生かして終始予定プロに従つて楽しく順調に終了する事が出来ました。

主任講師県連事務局長、以下内田、宮沢、鈴木順、牧野、井村、三輪の奉仕。



本部は天幕生活、当番班は交代で廊下で就寝。無理もあつたが、それだけによ

く緊張して熱心に終始した。一部に批判的な受講生も居たが、成果は多だ。

心に灯されたBSの火が各地に燃え上らん事を切に祈念して諸氏の其の労を深く謝します。

〔写真説明〕第69期BS指導者講習会於井伊谷(8.28~31)受講生43名、前列右から2番目より井村修、鈴木コミ内田県副コミ、西沢引佐1団委員長、中央森田主任講師、宮沢地区副委員長のスタッフの面々。

### うごき (浜松地区)

(7.28~9.28)

- 7日28日 天竜説明会 二俣小  
内田嘉、牧野、三輪
- 29日 県職員キャンプ指導  
御殿場東山湖 内田嘉、牧野
- 29~8月3日 富士訓練野営派遣  
山中野営場 年長隊員17名
- 8月2~5日 浜松地区合同野営 渋川  
川宇連 参加申込み235名
- 9日 磐田、浜松地区コミ懇談会  
成子町
- 10日 **BBS**県大会助言者  
商工会館ホール 内田嘉
- 11~16日 関東実修所派遣  
山中野営場 後藤守
- 14日 全国水上六会予行演習打合せ  
市営プール
- 15日 天竜結成準備説明会 二俣小  
宮沢、内田嘉
- 16日 東京133団出迎え  
市役所前 内田嘉 浜松9団
- 17~18日 三土会 秋葉山本宮  
参加者20名
- 17~25日 日本ギルウエル派遣10  
期入所 那須野営場 三輪
- 21日 東京133団訪問 三ヶ日青  
年の家 内田嘉、牧野
- 22日 青少年保護センター野外活動  
指導 内田嘉、鈴木順
- 22~24日 周智第1団合営  
法林寺 13名
- 24日 **GS**説明会 第一幼稚園  
内田嘉
- 25日 磐田4団**CS**審査  
磐田満徳寺 牧野、内田嘉
- 28日 全国水上六会総合演習  
市営プール
- 28~31日 **BS**第69期講習会  
井伊谷宮 受講者43名
- 30~9月1日 全国勤労者水上六会  
奉仕 市営プール  
延350名奉仕
- 9月2日 第11回世界ジャンボリー、  
ギリシャより帰国の内田博人  
君出迎 浜松駅前
- 3日 周智第1団2周年記念  
秋葉山本宮 宮沢、内田嘉
- 5日 スカウト浜松編集会議法林寺
- 14日 県コミ会議 内田嘉、鈴木順  
牧野 静岡楽山荘
- 18日 地区委員会 法林寺
- 21日 三土会 法林寺
- 24日 天竜仮第1団 下審査  
内田嘉、宮沢、鈴木、桑島
- 28日 引佐町狩宿説明会  
宮沢、内田

### 兵庫SS、RS合同野営に参加

日本砂鉄KK職域スカウト育ての親広岡氏の招きに依り、浜松7団SS角宏樹

和久田祐通両君8月12日~14日間、兵庫県宍粟郡山崎町与位<sup>7</sup>神野牧場に於ける野営に参加、交歓して来た。

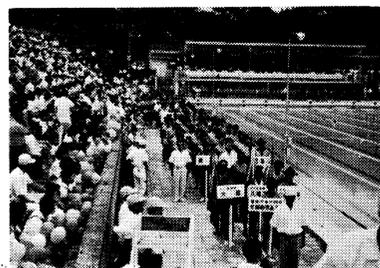
### BS地区10周年記念大会日程

- と き 10月6日(月)スカウトの部(午後1時~4時)第3部成人の部(午後5時30分~同8時)
- と ころ 浜松市体育館ホール  
(遠鉄元城駅前)
- 内 容 第1部 式典の部午後(1時~30分)  
物故者慰霊、表彰、その他  
第2部 ラリー  
河合楽器の楽団演奏、ギリシャ・ジャンボリー報告、**GSBS**、**SS**、**CS**、団委員に依るゲーム、劇、歌等  
第3部 成人の部式典(団委員長リーダー)体育館会議室、会費制(午後5時30分~8時)  
①表彰 ②乾杯 ③10周年を顧みて懇談等

### 勤労者水上大会奉仕

#### 御苦勞様でした

健康保険第14回全国勤労者水泳競技大会が8月30日から9月1日まで、元城市営プールに於て開幕され、全国50都府県から集った勤労者が水上大会に打ち込み、数々の好記録を生み出しました。大会のお手伝いをしたスカウトが3日間延べ350名の多きになり、無事終幕を飾る事が出来た蔭にはスカウト達の奉仕があつたからだと主催者側から喜ばれております。朝から晩まで大変御苦勞様でした。



〔写真説明〕8月30日市営プールに於て第14回全国勤労者水泳大会開会式選手入場風景

### 野外での即興劇集の斡旋

野外での即興劇集が到着しました。

カブ隊の月例会や、スカウトのキャンプファイヤーにとてもむいております。

指導者は一冊手に持つてると、とても便利です。定価90円 2段組120頁 御希望の方は現金を添え地区事務所(成子町・2-3018)又は事務長三輪まで御申出下さい。劇集は地区事務所にあります。

### バック及びカバンの斡旋

**バック**(野営用、外出用、衣類整理用バック)中身整理用袋4ヶ取付あり。  
価格 1,800円

**カバン** かたかけ用書類カバン  
価格 500円

以上はリーダーに最適です。見本は地区事務所にあります。希望の方は是非どうぞ。

### 浜松地区合同野営 入山参観者

(於渋川川宇連野営場)

8月2日~ 6名 3日~28名  
4日~70名 5日~ 5名

計 109名

(地区本部を通じた調査です)

事故者(腹、頭痛、その他)

8月2日 6名 浜名7、周智1、浜名2  
3日 9名 浜松10、浜名6  
4日 1名 浜松7

野営区別に見ますと

第1~5名 第2~10名 第3~1名 計16名  
以上は、本部医務部で処理した数です(程度の軽いものは除外)

指導上多少考えさせられる問題がありました。それは、すり傷、切傷は上記の数にのつていませんが、参観の多かつた日及び医務部の先生が、自分の団の先生だと云う気やすさから、あまえて来るのが目立ちました。

### ~あとがき~

浜松地区へ**BS**運動が始つて10年になりました。此の運動を育てて下さつた多くの諸先輩に感謝をささげると共に10月6日、地区10周年大会を、盛功裡に飾ろう。

年間の総仕上げとも云うべき、渋川川宇連に於ける地区合同野営も、数々の成果の足跡を修める事が出来ました。

世界ジャンボリー(第11回・ギリシャ国)の年、4団**SS**隊内田博人君が1ヶ月間に亘る遊を終え、数々の成果と国際親善を果して(9月2日)元氣にかえつてきました。

スカウト浜松も2才を教えました。今後とも深い御理解と発展の為に、この紙を通じどしどし御意見やら、御指導御鞭撻をお寄せいただけます様、編集者一同お願いする次第です。

弥 栄

発行所 No.9

日本ボーイスカウト浜松地区  
事務所 浜松市成子町

TEL 2-3018

編集発行責任者 三輪 悦爾

昭和38年10月1日 発行